

第 13 章

「たいしたことない」と思っていませんか？ 実際にあった体験から学ぶ

患者 A

さん - 糖尿病の人は、履く靴に気をつけましょう

患者 A は 47 歳の女性で、インスリン依存性糖尿病の既往がある。左足に感染性水疱があり、救急外来を受診した。友人のダンスパーティーでこの靴（図 13-1）を履いていて、帰宅後、左足の側面に水疱があることに気付いたという。数日後、赤みと痛みが増してきたため、当院の救急外来を受診されました。救急外来で診察したところ、左足の皮膚膿瘍が化膿しており、赤みが足首の方まで広がっていました。水疱を切開し、膿を排出しなければならなかった（図 13-2）。彼女は感染治療のために入院した。感染は最終的に解決したが、この創傷欠損を閉じるために数ヶ月間何度も創傷治療を試みても、足には治らない大きな穴が残ったままであった。傷口の下の骨も感染している疑いがあると思い、足の MRI を撮影したところ、潰瘍の隣の骨が感染していることが MRI 画像で確認できました（図 13-3）。この時点で感染した骨を取り除かなければならなくなり（図 13-4）、1ヶ月以内に傷は完治し（図 13-5）、彼女はようやく通常の活動に戻れるようになりました。



図 13-1



図 13-2

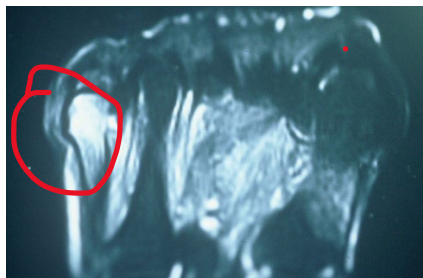


図 13-3

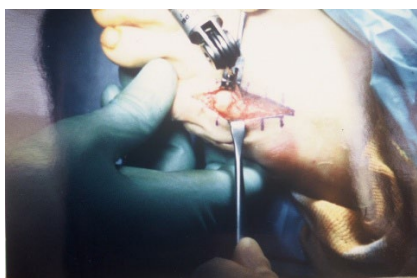


図 13-4



図 13-5

患者 B

患者 B は 55 歳の男性で、10 年前から糖尿病である。糖尿病、高血圧、高コレステロールの内服薬を服用しています。足の裏が赤く腫れているが、痛みはないため救急外来を受診した。妻は足の指の間から黄色と緑色の液体と悪臭がするのに気づいたと言う（図 13-6）。救急外来で右足を診察したところ、足の裏が腫れて膿が溜まっている状態であった。救急外来で足の裏をメスで切開し、膿をすべて排出した（図 13-7）。感染と膿は小指とその隣の指の間から生じていることが判明した。その部分は、水虫やタコとして知られている真菌感染症でした。足の指の間が感染し、その細菌感染が足の裏に入り込み、足の裏に膿が出るようになったのです。患者は足の感染症の治療のために入院しました。患者は重度の血行障害があることが判明したため、血管外科医に診てもらった。血管外科医は、重度の血行障害があるため、感染症は治癒しにくいと判断した。右足の血行を改善するために、血行再建術を受けた。右足の血行再建後、創は治癒したが（図 13-8）、治癒完了まで数ヶ月を要した。前述のように、この傷は血行を改善しなければ治らないので、足の切断を余儀なくされるところであった。



図 13-6



図 13-7



図 13-8

患者 C

さん 巻き爪で足を失った？

患者 C は 67 歳の男性で、非インシュリン依存性糖尿病である。透析中の腎不全の既往があり、重度の循環障害である。タバコの喫煙歴があります。彼は、慢性的な巻き爪で私のオフィスを訪れました。彼は、巻き爪の部分を切り、アルコールと過酸化水素で洗い、きれいにすることで、自分で巻き爪のケアをしようと試みました。そして、最終的に私のオフィスに来ることにしました。来院されたとき、足の指はすでにチアノーゼを起こして青っぽくなっていました（図 13-9）。この症例では、足病医、血管外科医、感染症専門医、内分泌専門医が彼の足を救おうと試みたが、足指は壊疽を起こし、彼は外反母趾を失った（図 13-10）。循環障害が進行している場合、軽度の足指切断でも治癒は困難である。足の指の切断が治らないため（図 13-10）、足の半分を切断し（図 11）、足への感染の広がりを止めなければならなかった（図 13-12）。このときも、足を救おうとする試みは失敗し、最終的には膝下切断となりました。



図 13-9



図 13-10



図 13-11



図 13-12

ここには、学ぶべきことがある。

1. 巻き爪のような一見小さな問題でも、糖尿病患者は足を失う可能性がある
2. 自分で治療しようとししないでください。
3. タバコを吸うと血行が悪くなる。

患者 D

患者 D は 45 歳の建設作業員で、15 年間のインスリン依存性糖尿病の病歴がある。ある日、仕事から帰宅して靴を脱いだら、左足に血のついた靴下があることに気づいた。錆びた釘を踏んでしまい、それが足の中に入り込んでいることに気づいたのです。本人に痛みはなく、そのまま数日が過ぎた。nd 数日後、妻が足の裏から赤くなり、足の指 2 本が黒くなっているのに気付いた（図 13-13）。救急外来を受診されたとき、私はすぐに外科的治療の予定を立てました。2nd 足の指は壊疽を起こしており、これを取り除き、足の方に移動している膿を排出する必要がありました。左足は、足の深部組織内の膿を吸引するための Wound Vac（図 13-14）と呼ばれるもので治療しました。傷は治ったが、数ヶ月かかった(Fig. 13-15)。



図 13-13



図 13-14



図 13-15

患者 E

ハンマートゥで足を失った？

この患者 E は 65 歳の男性で、26 年間の II 型糖尿病の病歴があった。彼はまた、左足の 2nd と 3rd のつま先にハンマートゥの問題を抱えていました。彼は長期間のヘビースモーカーであり、他の医学的問題も抱えていました。彼は COPD、腎臓機能不全、心臓病を持っていた。ある日、足の指 3 本 (rd) にある厚い角質から膿が出ているのに気づいた。彼が私のオフィスを訪れたとき、第 2 趾はすでに黒くなっていました (図 16、13-17)。



図 13-16

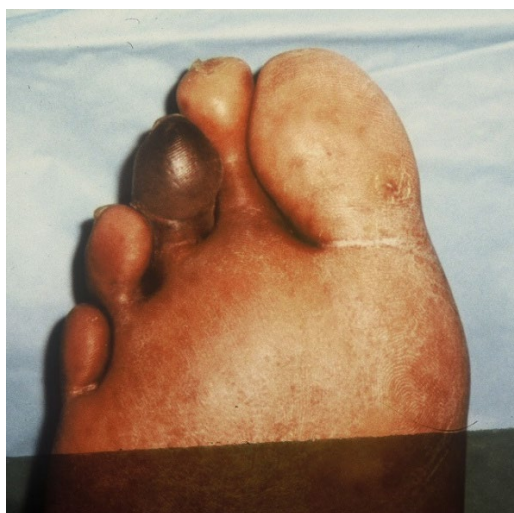


図 13-17

重度の循環障害となった症例です。すぐに血管外科を受診し、血行再建術を行いました。足を救うことはできませんでした。結局、この患者さんは足を失いました。